

## 子どもたちに会う前に

### ○学校教育の目的は、「人格形成」である。

授業を中心に すべての学校での活動を どのようにして「人格形成」に結びつけるか

#### 1. 学級経営

- 「人権に関すること」「生命に関すること」は、教師主導で、厳しく指導する。
  - ・人権に関すること：人を馬鹿にする・うそをつく・人をだます・約束を破る など
  - ・生命に関すること：危険なことをする・人を傷つけるようなことをする。 など
- 「人権に関すること」「生命に関すること」以外は、**子どもに結論を出させる。**  
これからどうするかは、子どもに考えさせる。
- 一人一人に学級内での居場所を確保する。
  - ・学級の中に個々の存在感がある。
  - ・子ども一人ひとりに責任を持たせる。  
学級の係：一人一役。 調べ学習：個々に分担する。 作業：個々に分担する。
  - ・一人一役の係活動など「これについては、この友達だ」といえるものをつくっていく。
- 毎日、必ず全員に一人ずつ声をかける。(授業中の指名ではない。)
  - ・休み時間、そうじの時間、給食の時間の利用。
  - ・毎日、先生との交換日記。
- みんなで創造的な活動をする。→時間をかけて何かを創り上げるような活動。

#### 2. 生徒指導

- ・「命」と「人権」にかかわるものは、厳しく指導し、それ以外は、子どもに結論をださせる。
  - 命：危険なことはしない。危険なことはさせない。人に危害を加えない。
  - 人権：うそをつかない。人を馬鹿にしない。つばをかけない。
- ・人権の問題は、特に授業の中で指導していく。(授業中の子供たちの言動を中心に)
- ・聞く態度、発言する態度を人権に絡めて指導する。
  - 友達の発言を馬鹿にしない。 授業をつぶすような発言をしない。
  - 聞く態度、姿勢を正しくする。 授業中は、先生の指示に従う。
  - 言葉遣いを丁寧にする。 人を馬鹿にしたような態度をとらない。 など
- ・この学級になくなくてはならない存在であると、自分の存在感を自覚させる。
  - 係活動：①みんなを助ける仕事 ②一人一役。 ③毎日、仕事がある。④先生が毎日声をかける。
  - 日記：毎日書かせ、赤ペンを入れて返す。内容は、工夫が必要。
- ・先生は、①うそをつかない。 ②約束は守る。守れない約束は、しない。 ③例外をつくらない。
- ・さぼりの子ども、悪いことをした子どもには、必ず**ペナルティ**を与える。
  - 休み時間にやる。放課後残る。謝る。問題を修復する。壊したものを片付ける。 など
  - 「罪を憎んで人を憎まず」**の姿勢
- ・性善説で考える。

#### **子どもに結論を出させる。**

子どもの考えに問題のあるときは、「先生は、〇〇〇と思う。」と言って、考えることを促す。  
子どもの脳の「皮質」を刺激するのではなく、「髄質」を刺激するような言葉かけが必要。  
子どもの「心」に訴えること。  
子どもの「うそ」は、「自分を守るためのうそ」「人をだますためのうそ」がある。  
「人をだますためのうそ」は、厳しく指導する。

### 3. 授業

子どもたちは、ある程度、学習内容を知っていると考え。しかしそれは、「明確でない」「意識していない」「整理されていない」「詳細でない」等の状態であると考え。それを、明確にしたり、しっかりと意識させたり、論理的に系統的に整理したり、詳しく追究したりするのが授業であると考え。知らないから、教えてやるという姿勢が一番の問題である。授業は、ペーパーテストでいい点を取るのが一番の目的ではない。子どもが感動する授業を構築することが一番大切なことである。

学校教育の目的は、  
子供の人格形成である。  
授業で子どもを創る。  
授業で学級を創る。  
授業で、子どもは先生を尊敬する。

- 単元の見通しを持たせる。⇒子どもに伝える。  
学習する目的をしっかりと示す。
- 1時間の見通しをもたせる。⇒子どもに伝える。  
何をどうする  
何がわかればいいのか⇒子どもの自己評価につながる。  
手順を示す
- どう授業をまとめるか。⇒過程と結果でまとめる。
- 「教える内容」「考えさせる内容」をはっきり分けて授業を構築する。
- 子どもたちが「知っている内容」を「知らない」という前提で授業を組んではいけない。
- 学習内容を「知っている子ども」と「知らない子ども」がいることを前提に授業を組み、どの子も「わかった」といえる「感動のある授業」を構築する。
- 授業の流れは、「ものの見方や考え方」。この中に「教える内容」を組み込む。
- 子どもの発言を先生がつなぐ授業⇒先生は、接続語をできるだけ使う。

「子どもは、知っている。」が、前提  
単元計画をしっかりと立てる。

教材研究をしっかりと、毎時間の授業を大切にしよう。

授業で子どもを育てていることを忘れてはいけない。

### 4. 学級づくり

- 授業で学級を創る。
- 学級のルール

1. 命を守る一危険なことをしない。させない。
2. 人権を守る一うそをつかない。人を馬鹿にしない。つばをかけない。

### 5. その他

- ①同僚・先輩・管理職には、

まず、教育に対する自分の哲学を確立しよう。

- 自分の想いは、はっきりという。
- 納得しないことは、絶対に拒否する。←学級経営に関わってくる。
- 自分のすることは、みんなに伝える。一こそこそとしない。
- 悪口は、本人の前で言う。
- まちがっているとわかれば、すぐに、素直に謝る。
- 仕事の相手は、子供であることを忘れない。→同僚ではない。

- ②子どもたちには、

- うそをつかない。例外をつくらない。
- 自分の都合のよいように子どもを扱わない。(管理してはいけない)
- 子どもには、自分の感じたり思ったことをそのまま素直に伝える。

### ③塾と学校教育

○塾は学習指導が、目的。

○学校教育では、学習指導は、手段。人格形成が目的。

## ○いつも考えておきたいこと

### ○教育とは、過去の歴史の再創造である。

教育とは、文化遺産を教えるのではない。文化遺産が創られた過程をモデル化して、子供たちに歩ませてやることである。その過程を体験することによって、未来への展望が生まれる。

### ○教育の目的は、人格形成である。

教育の目的は、知識や技能を教えることではない。授業を通して、教材を通して、人格形成をするのが目的である。その目的に向かって教材研究をして、毎時間の授業をしっかりと構築しなければならぬ。

### ○教育は、「指導」ではない。

「教育」という言葉は、なんだか「上」から「下」へという感じがする。教師は、子どもたちを「指導」するのではない。

1. 観察——まず、子どもたちをしっかりと観察すること。
2. 刺激——観察で得たデータをもとに個々に適切な刺激を与えること。
3. 相談——刺激によって、子どもたちは、動き出す。  
そこで、問題の解決に支援・助言を与える。
4. 案内——子どもたちにこれからの方向性・見通しを示す。
5. 激励——あとは、「がんばれよ」と激励し、肩をたたいてやる。

**これが、本当の意味での「指導」ではないか。**

### ○教訓

1. すぐれた教師は、高いレベルの内容を易しく教える。だめな教師は、低いレベルの内容をむずかしく教える。
2. すぐれた教師は、たくさん知っていて少ししか教えない。だめな教師は、少ししか知らないのに全部教えたがる。
3. すぐれた教師の授業は、散らかっているが、一つ一つが生きている。だめな教師の授業は、整然としているが、むなしく終わる。

**授業は、いつも後者になってしまう。頭の中は、前者を想っている。**

### ○「遊びを通した学習」ということ

「遊びを通して」「遊びの中から」「子供たちが喜んで学習…」というようなことばをよく使う。「遊び」は、子供たちにとってのことであり、子供たちは、遊ばせてもらっていると受け止めているだけである。**教師は、核心に触れたゆるぎない学習を子供たちにさせているのである。**そういう場面が、本当の「遊び」である。逆になるとどうなるだろうか。子供たちは、むずかしくわからないことをいやいや押し付けられ、教師は、「遊ばしたつもり」でいる。よくおこることである。これは、本当に「遊んでしまった」学習である。

### ○「わかる」3step と「できる」3step

1. 「わかる」3step  
手でわかる (Hand) → 頭でわかる (Head) → 心でわかる (Heart)
2. 「できる」3step  
手続きができる → (理由が) 説明できる → 活用ができる

## ○教育の場における「基礎・基本」とは、

読・書・算などの基礎的な知識・理解・技能のみと狭くとらえるのではなく、主体的に学び、自分の考えを持ち、それを的確に表現できる力や問題を解決する力や学び方などを含んだものととらえるべきである。

## ○「見方や考え方」の学習とは、

子どもたちが、問題解決のために主体的に考え、そして、目的を達成しようとする際の一連の活動自体を教科指導の基本にすえて、意図して子どもたちに獲得させていくことである。

## ○こどもの「うそ」の2種類

1. 自分を守るための『うそ』—低学年に多い  
「怒られるのがこわい」「わかると殴られる」など、自分の身を守ろうとして本能的につく「うそ」→**やさしくしっかりとカウンセリングする。**
2. 人をだますための『うそ』—高学年に多い  
「だましてやろう」と考えてつく知的「うそ」  
→**しっかりしかって「悪いこと」を認識させてからカウンセリングする。**

## ○家庭訪問

用事があって家庭訪問する先生は、「普通の先生」  
用事があっても電話で済ませるのは、「好ましくない先生」  
用事があっても家庭に連絡しないのは、「よくない先生」

**「よい先生」とは、用事がなくても家庭訪問する先生。**

## ○先生としての心構え

1. 1ヶ月先を見て、仕事をする。
2. 教材研究をして、「わかる授業」を構築する。
3. 子どもたちと関わる時間をできるだけ多くとる。
4. 放課後、30分は、教室で仕事をして、子どもたちとしゃべる。
5. 1日1回は、個々の子どもに声をかける。
6. 家庭訪問を年に3回以上する。
7. うそをつかない。子どもたちとの約束は、絶対に守る。
8. 例外は、認めない。

## ○教室環境

- ・前⇒できるだけシンプルに。学級目標と時間割程度。
- ・毎日動く掲示、毎日変化をする掲示
- ・授業の跡を残す掲示
- ・掲示の目的を明確にして、その目的に沿った掲示を考える。
- ・そうじをていねいにする。⇒そうじの仕方は、きちんと指導する。
- ・生き物を育てる。⇒金魚、めだか、鉢植えの植物、うさぎ、など

## ○学級経営をどう始めるか。

### 1. 子どもたちに初めて会ったら

○命と人権にかかわることは、特に厳しく指導します。

命：危険なことはしない。危険なことはさせない。人に危害を加えない。

人権：うそをつかない。人を馬鹿にしない。つばをかけない。

※基本的には、「躾はするが、管理はしない。」という考え方で指導していく。

### 2. 当分の間は、躾と管理の区別は、あまり考えないで、どんどん規制を加えていく。

そして、子どもの判断基準を確立していく。家庭での「普通の躾」が期待できないからである。

○授業中のきまりを徹底する。

- ・子どもたちと話し合っ**て学習規律**をつくる。(勝手にしゃべらない。たち歩かない。など)
- ・はじめは、話し合い活動とかを取り入れた問題解決学習はしない。
- ・教師主導型の一斉指導を行う。(問題解決学習が確立されていない場合)
- ・高学年においては、ノート指導を徹底する。
- ・低学年においては、教科書やノートや道具の扱いを徹底する。

○具体的な場面で全体の前で注意していく。

→人権にかかわる問題に結びつける。

→一般化または拡張して注意する。(躾の要素が大きい場合)

- ・勉強したくない→やりなさい。やりたくなくてもやらなければいけないことは、やるのです。
- ・なんでー？→そんなことはいうべきでない。先生がやりなさいといったことは、だまってやるものです。
- ・宿題忘れ→必ずその日のうちにやらせる。
- ・きまりを破る→きまりは守りなさい。勝手なことは許しません。ペナルティーを与えてもよい。
- ・授業中立ち歩く→ちゃんとすわりなさい。授業中は、勝手に立ち歩いてはいけません。

※はじめ(4月当初)は「命令」「指示」の連発でよい。

子どもの判断基準の確立

### 3. 管理と思われる部分で、規制をはずせそうな部分からはずしていく。(4月末か5月始)

○先生に怒られるからしないという考え方を自分としてやってはいけないと思うからやらないという考え方に変えていく。

○躾であると確信できるものは、特に徹底する。

○子どもたちと話し合っ**て、「学習規律」をつくっていく。**

### 4. 学習規律が身についてきたころから問題解決学習に切り替えていく。(5月連休明けぐらい)

○教師主導型問題解決→自力解決を子どもに任せる。→学び合いを子どもに任せる。

→まとめを子どもに任せる。→問題設定を子どもに任せる。

### 5. その他

○子どもにこの学級になくなくてはならない存在であると存在感を自覚させる。

・係活動 ①みんなを助ける仕事 ②一人一役 ③毎日仕事がある。 ④先生が毎日声をかける。

○先生は、①うそをつかない。 ②約束は守る。 ③例外をつくらない。

○学習規律や学級のルールなどの掲示は、いつはすすかが問題。

いつごろはすすかを考えて、掲示すること。

一年中貼り続けるのは、「学校目標」か「学年目標」ぐらい。

※学級経営は、常に進歩していかななくてはならない。 指示・命令→自主性・主体性・創造性

## 学習規律

### 1. 学習規律とは、

- 学級の子もたちが自主的な学習活動を進めるにあたって必要となるルールやマナー。
- 集団で学習するためのルールやマナー。社会性を養うためのルールやマナー。
- 教師と子どもたちで協力し合って創造するもの。押し付けるものではない。

### 2. 考えられる学習規律の例

#### (授業前)

- 授業の前に、教科書・ノートなど必要なものを机に出しておく。
- 授業開始までに教室に戻り、着席し、静かに待つ。
- 日番の合図で、学習の始めの挨拶をする。

#### (授業中)

##### ○発表の仕方

- ・前の人の意見に付け加えて、ふくませる。
- ・指名されたら「はい」と返事をする。
- ・発表回数の少ない友だちを優先する。
- ・声の大きさ、手の挙げ方、立ち方、言葉遣いに気をつける。
- ・わかりやすい説明の仕方を工夫する。(動作化・絵・図など)
- ・聞き手の様子を見ながら話す。

##### ○聞き方

- ・先生、発表者の方を向いてしっかりと聞く。
- ・うなずいたりしながら自分の考えとくらべながら聞く。
- ・「聞こえません」「わかりません」「もう一度説明してください」「〇〇の所がわかりません。」など、はっきりという。

##### ○グループでの活動

- ・発表回数の少ない友だちを助ける。
- ・グループ内の参加や理解などを確かめる。
- ・話し合いを進めたり、まとめたりする。
- ・自主的活動を提案する。

##### ○その他

- ・正しい姿勢で学習する。
- ・勝手に席を立たない。
- ・必要なもの以外は、机に出さない。
- ・私語はしない。
- ・ノートをていねいにきめられたとおりにかく。

#### (授業後)

- 日番の合図で、学習の終わりの挨拶をする。
- 次の授業の準備をしてから休憩する。

#### (家庭で)

- 宿題をきちんとする。
- 忘れ物をしない。

※指導の仕方、管理教育になったり、自主性の育成になったりする。子どもに提供するときによく考える必要がある。

## 授業構築のポイント

- 子どもが、「わかった」「そうだったのか」「なるほど」「知らなかった」とつぶやく授業。
- 授業とは、「質の高い映像的イメージを子どもの頭の中にどうつくっていくか」ということ。  
イメージ化を助けるもの：表現・動作化・絵・図
- 授業は、「子どもは、知っている。」を前提に組み立てる。  
ただし、子どもは、「何を知っているか」「どのように知っているか」をしっかりと指導者は、把握する必要がある。
- 授業は、単元の導入を大切にし、目の前の子どもの実態にあったように工夫する。  
導入の内容によって、単元全体の指導内容や流れが大きく変わる。
- 問題解決の授業  
参考：「いかにして問題をとくか」G.ボリア著 丸善株式会社  
「認知心理学講座4 学習と発達」波多野詮余夫 編 東京大学出版会
- 授業の二層構造化：1時間の授業のねらいを2つもつということ。  
表層：知識・理解・技能（結果）→学力の低い子ども中心  
深層：見方や考え方（過程・原理）→学力の高い子ども中心
- 1時間の授業の中に
  1. 一斉に全員が、何かをする場面
  2. 考える場面
  3. 学力の低い子どもが、納得する場面→「わかった」
  4. 学力の高い子供が、感心する場面→「わかった」
  5. 学力の低い子供に合わせる場面
  6. 学力の高い子供に合わせる場面の場面を設定する。
- 1時間の授業は、
  - ・低学年は、15分区切りで
  - ・中・高学年は、ノート指導を→「何をかくか」より「どこにかくか」場所を指定
- 毎時間、必ず評価を出す。評価の「見える化」
  - ・ノート、ワークシート等を授業後回収し、3段階程度の評価をかく。  
コメントを付け加えるのもよい。

1. 質の高い映像的イメージの構築

2. 一斉指導の中での個別化

# 新年度計画

1ヶ月先の仕事をしよう。

## 1. 校務分掌で係が決まったら

- ①前年度の書類を出してくる。
  - ・普通は、ファイリングされている。または、PCにある。
  - ・前年度の係が持っていることもある。
  - ・職員会議の資料しかないものもある。(職員会議の資料は、教頭が保管しているはずである。)
  - ・最悪の場合、何も資料がないということもある。
- ②仕事内容を確認する。
  - ・教育反省の関係のある部分と照らし合わせる。
- ③提案日を調べる。
  - ・書類に日付があるはずである。
  - ・部会で提案しなければいけないものは、それより1~2週間前と考えればよい。
- ④仕事の年間計画を立てる。
  - ・書類作成期限
  - ・部会提案日
  - ・職員会議提案日
  - ・事後処理予定期限 など

年度当初の職員会議で提案されている分については、それをもとに進めていく。

- ⑤計画に従って、仕事をしていく。
  - ・早くするに、こしたことはない。
  - ・書類の作成は、

ここまでが、春休み中

- 自校のものを修正する。
- 前任者の反省を参考にする。
- 教育反省の内容を反映させる。
- 他校のものは持ってこない。
- 自分の主張を入れる。

- ⑥仕事が終われば
  - ・反省記録：できたら全員のアンケート(反省)をとる。
  - ・作成書類に自分の反省を赤で添書き
  - ・作成書類のデジタル化→ファイリング

## 2. 教室環境：子どもの安全確保と学習環境の整備

- ・壊れているところの修理
- ・釘、押しピンの針、フック等必要でないものは、取り除く。
- ・黒板、掲示板等の使用計画
  - 「学習につながる」「学習の跡が残る」「次へ生かす」掲示を心がける。
  - 後ろの黒板の線・日付等→ポスターカラーで引くと消えない。ぬれた雑巾で拭くと消える。
- ・教室備品の確認
  - 掃除道具・TV・配膳台・指導机・かさ立て など

## 3. 児童関係

- ①児童名簿の作成
  - ・Excelで作成すると便利である。
  - ・いろいろな項目を作って書き込んでいけばよい。使う時は、必要部分だけ切り取ればよい。
- ②個人データノート作成
  - ・大学ノートを使用し、一人見開きで2ページを使う。
  - ・取りあえず、児童指導資料、指導要録、組み分け資料、保健資料、健康診断表等で整理しておく。
  - ・校区内地図に子どもの家の場所を記入しておく。
- ③児童指導資料・保健資料・健康診断表・指導要録の整理。→番号、担任印 等

プライバシーの保護(紛失・落とす・もれる など)



まず、自分の学年の教科書を購入することから始めよう。

#### 4. 授業準備

- ①学年内での打ち合わせ、教材・教具作り
- ①授業時間割の作成
- ②各教科年間指導計画
  - ・ 昨年の資料があると思われるので、それを参考に自分で年間計画を立てる。
  - ・ 行事および行事の準備にかかる時間も考えておくこと。
- ③各教科1単元分の教材研究

#### 5. 自分の年間計画

- ①1年間の自分の見通しを立てる。
  - 学校行事・学年行事・学級活動
  - 授業計画
  - 分掌事務処理計画
- ②月ごとにわかる事柄から記入していく。→徐々に増やしていく。